

西部読書普及センター開設

島根県立図書館長 稲 田 健 二

県立図書館は市町村読書施設（市町村立図書館・公民館図書室等）の中心となってサービス網を整備し、県民がどこに住んでいても、市町村読書施設を通じて県立図書館のサービスを平等に受けられる体制を整えなければなりません。そのためには全市町村に図書館の設置が必要となってまいります。このため、島根県教育委員会としては「第二次島根県読書普及振興計画」(昭和59～63年)を策定し、その基盤整備のために市町村に対し、読書普及活動の推進、図書資料の補充等の指導・援助を行ってきているところであります。

しかしながら、本県の地形は東西に細長く、かつ県立図書館が東部に偏しているため、地理的制約等によって西部の市町村に対するサービスがともしればゆきとどきかねる現況にありました。このような現況を踏まえ以前から県西部に図書館サービスの中核的施設をとの願いがあったわけでありました。

本年4月、この願いが実を結び、浜田市街地の東、長沢町に島根県立浜田教育センターに併設し、「西部読書普及センター」を開設することができました。

このセンターは4万冊を収納できる開架書庫と所

長以下5名の職員を配置し運営をいたしております。開設当初は館外貸出用図書2万5千冊でスタートいたしました。62年度末までには、さらに2万冊以上の図書の購入を予定しております。

主な事業内容は次のとおりです。

1、県西部の市町村図書館、読書会、子供読書モ

デル市町村等に対し、必要な資料の貸出。

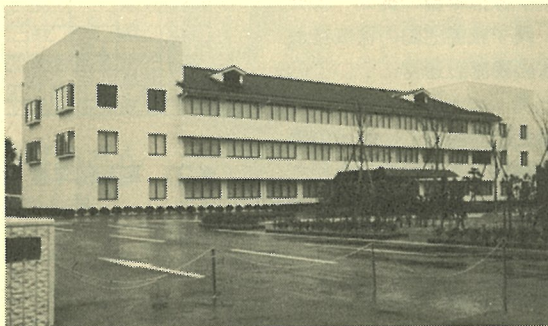
2、親子読書、子供読書活動の育成推進、読書施設運営についての指導助言。

今後は、西部の市町村図

書館、公民館図書室、読書会等に対する図書の貸出しは、このセンターを利用していただくこととなります。

また、ここには専任の読書指導員を配置し、親子読書、子供読書、成人読書会への派遣もできるようになっています。

このセンターを核として、市町村の教育委員会、図書館等が相互に連携を密にし、読書普及活動推進のため、より一層の御尽力をいただきますようお願いいたします。



ご利用ください!

西部読書普及センター

浜田市長沢町1550-1 TEL 08552-3-6785

1. 西部読書普及センター業務

県西部への県立図書館の読書普及サービスを拡充するため、昭和56年から検討していた西部読書普及センターが去る4月30日浜田市長沢町に開設しました。

昭和60年度に図書15,000冊を購入し、県立図書館からの図書と合わせて館外貸出用図書として25,000冊を準備しました。これらの図書を県西部の市町村等へ貸出します。①県立図書館が指定した図書センターへ5,000冊以内の貸出 ②子供読書会、成人読書会に読書会用図書の貸出(1セット15冊) ③保育所、幼稚園、小学校、地域のグループ等への団体貸出(100冊以内3ヵ月以内) ④公共図書館、公民館図書室等への特別貸出 ⑤子供読書モデル市町村への貸出(モデル期間3年)

お申込みになればいつでもお貸しします。又、この西部読書普及センターには主任司書をはじめ読書普及指導員を配置し、市町村読書普及活動の指導援助をします。①子供読書モデル市町村での子供読書会の育成 ②市町村の子供読書指導員の養成 ③モデル市町村外の子供読書、親子読書活動の育成推進 ④図書センターの育成 ⑤読書施設運営についての助言、援助

県立図書館がモデル事業として進めている子供読書会活動のすすめ方や親子読書、子供読書の大切さやその他読書に関する事など要請があればいつでも指導員が出かけます。

2. 昭和60年度館外用図書貸出状況

館外用図書の県内貸出状況(昭和60年度)を表1にしました。浜田を境に浜田以西を西部、温泉津以東を東部とし、離島である隠岐を西部につけました。東部と西部の貸出状況をグラフに表わしたのが表2です。西部が多くなっているのは移動図書館と親子読書モデル市町村への貸出のみです。移動図書館は松江から図書を積んで市町村へ出かけ、身近かに貸出します。隠岐へもたくさんの本を貸出しています。ですから、遠い地域でも身近かに借りることが出来ます。学校、文庫等への団体貸出は直接図書館まで借りに行かなければなりません。距離的に遠い西部では利用が少ないのは当然かもしれません。

島根県は東西180kmにおよび、浜田からでも松江へ行くのに広島、山口までより遠いといわれています。西部の町村から県立図書館まで数千冊の図書を満載したトラックを駆って図書の交換に出掛ける苦

労は並大抵なことではありません。モデル事業にしても松江から西部へ指導員が指導、助言に出かけるのは大変のようです。(表2・指導員派遣状況参照) このため、細かな連絡がとりにくいことがありました。本年は指導員の派遣も図書の貸出しも西部はこの西部読書普及センターで行うことにより、少しでも貸出しが増えることを期待しています。

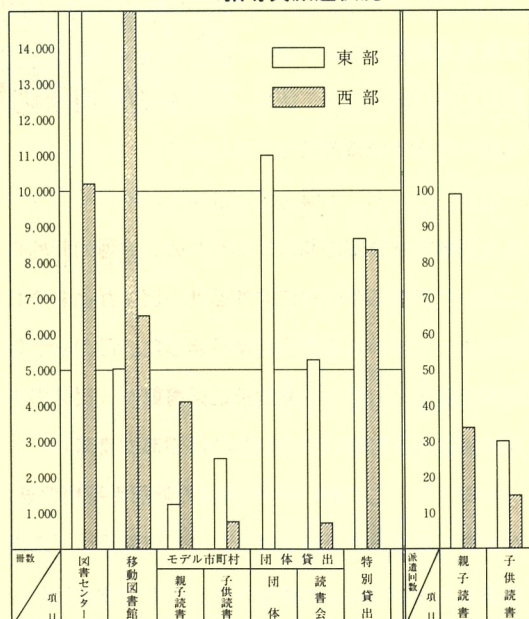
これからは身近なセンターとして西部市町村の図書館や教育委員会の担当者とは密接な連携と協力を図りながら誰もが本に親しみ、子供読書会や成人読書会がたくさん作られることを願っています。

〈表1〉 昭和60年度 各市郡ごとの貸出状況

	センター	B・M	モデル市町村		団体貸出		特別貸出	合計	派遣回数	
			親子読書	子供読書	団体	読書会			親子読書	子供読書
西	松江市		556		6,311	2,624			34	12
	安来市				1,712	461	1,000		5	
	八束郡		1,190	1,335	1,771	744	1,715		28	11
	能美郡				200	128			8	1
	仁多郡	1,997			97	135				
	大原郡	3,000		805		517			3	1
	出雲市								5	
	水田市								1	
	平田市				428	83			3	
	飯石郡	10,095	1,340	410	350	510	488	2,122	5	5
東	隠岐郡		2,093			16	135	1,510	3	
	瀬戸郡	2,020						2,330	3	
	小計	15,115	5,986	1,600	2,490	11,045	5,315	8,677	98	30
	%	(59.6)	(21.8)	(39)	(76)	(100)	(87.2)	(50.9)	(74.8)	(66.7)
	浜田市		338				275		5	
	江津市		890				152	2,928	6	4
	邑智郡	4,162	5,781		780		122	1,000	6	6
	那賀郡	4,500		1,330					3	
	益田市						148		7	
	美濃郡	1,570		330			30	450	3	4
部	隠岐郡		4,220				50	3,980	4	1
	小計	10,232	21,507	828	780	777	8,358		33	15
	%	(40.4)	(78.2)	(60.9)	(23.9)		(12.8)	(49)	(25.1)	(33.3)
	合計	25,347	27,493	4,088	3,270	11,045	6,092	17,035	131	45

(S61.3.31現在)

〈表2〉 昭和60年度 東部・西部貸出状況
指導員派遣状況



(S61.3.31現在)

県立図書館では毎年子供読書週間にちなみ、「おすすめしたい子供の本①、②、③」の目録を作成し、各教育委員会・小学校・幼稚園等へ配布しています。今年度は、①幼児前期向80冊、②幼児後期向170冊、③小学生向259点を推せんしました。次に小学生向の中から数冊紹介します。これは読書会用テキストとしても購入しています。

① あるきだした小さな木

ボルクマン作 セリグ絵 花輪莞爾訳 偕成社

パパの木とママの木の間で幸福に暮していた小さな木は、新しい世界に出てみたくなり、毎日からだをゆり動かし、ついに地面からぬけ出し、旅に出る。小さな木が求めたものは自由と独立と愛情であり、それを自分のものにすることができた。ユニークな発想と、美しいさし絵が詩的表現とあいまって子供の心をひきつける。

③ こだぬき6ぴき

中川李枝子文 中川宗弥絵 岩波書店

つきみ山のてっぺんに音楽家のおとうさんと、やさしいおかあさんと、6ぴきの子だぬきの家族が住んでいた。子だぬきたちがするかくれんぼ、食事、昼寝、音楽会の場面など、いかにもやんちゃな姿が、読者である子供の共感をよぶ。

⑤ だって だっての おばあさん

さのようこ作・絵 フレーベル館

「だって、わたしは98だもの」と、いっていたおばあさんの99歳の誕生日。ねこが買いに行つたろうそくを川に落としてしまい、ケーキに立ったのは5本きりだった。5歳の誕生日になってしまつてからのおばあさんは、若がえった暮らしを始める。やわらかいタッチの絵の中で、おばあさんとねこの表情が生きている。「だってわたしは……」のくり返しの口調がおもしろく、楽しみながら読める絵本。

⑦ くしゃみくしゃみ天のめぐみ

松岡享子作 寺島龍一画 福音館書店

人間にあまり歓迎されない生理現象—くしゃみ、しゃっくり、いびき、おなら、あくび—をくせにもつ、人と一種違った人間がこれらをうまく利用して幸せになっていく過程が大変おもしろく描かれている。

② おやすみなさい フランシス

ラッセル・ホーバン文 ガース・ウィリアムズ絵
松岡享子訳 福音館書店

あなぐまの子、フランシスは7時になると寝る時刻である。いったんベッドに行くがなかなか寝つかれない。ガウンが大男に見えたり、天井の壁のひびが気になって居間にやってくる。そこでの父親とフランシスとの会話が幼児の繊細な心理にかなっている。静かなストーリーにふさわしく、コンテを使って描かれた絵が暖かい雰囲気である。

④ びゅんびゅんごまがまわったら

宮川ひろ作 林明子絵 童心社

かえで小学校の校庭に続く雑木林は子供達の遊び場である。でもそこで事故があつてからは使用禁止になった。子供達は遊び場が使えるように校長先生に頼みに行く、それからびゅんびゅんごま合戦が開始される。生き生きとした子供のエネルギーが伝わってくる。校長先生と子供達のやりとりが楽しい。

⑥ チロヌップのにじ

たかはしひろゆき文・絵 金の星社

北海のチロヌップという島に住む親子ぎつねがある日、突然やって来た兵隊に捕えられたり殺されたりする。自然の厳しさと戦争の余波で滅んでいった野生動物の哀愁がにじみ出ている。

⑧ ゆかいな吉四六さん

富田博之著 講学館

陽気でおおらかな吉四六さんは、大変とんちがうまい。ただし、とんちでやりこめる相手は、権力や命令で村人をこまらす殿様や、庄屋、侍である。子供の想像力を羽ばたかせるようなゆかいなとんち話が19話のっている。

おすすめしたい子どもの本

読書会に入れていただいて2年、様々な本を読ませていただきました。自分の趣向としては、おそらく手にしないだろうと思う本も、読書会の仲間の人々とふれあう中でひとくけば、意外にも面白さに引き込まれていることがしばしばでした。

例えば、吉村昭著「破獄」などは、手渡されたときは戸惑いさえ覚える程でしたが、読み終えたときは、心の中にずっしりと重く確かなものを残してくれました。昭和10年～20年前後の戦争という殺伐として苛酷な時代背景の中で、人として愛に飢え、愛を求めて尚、得ることなく人間性を喪失したかのような、脱獄をくり返す一人の男の物語は、人間が人間らしさを取戻す唯一、最高の手段は愛であることを教えてくれた様な気がします。

最近、宮尾登美子著「天璋院篤姫」、モーパッサン著「女の一生」、モーリャック著「テレーズ・デスケルー」、野上弥生子著「森」等々、女性の生き方をあらためて考えさせられる本でした。それぞれの主人公の生きた時代的背景や感覚の相違はあるけれども、いつの世にあって女は女であり、しいたげられたもの、弱々しいもの、受身のかたちでの生き方が、象徴的な小説が多い中で、篤姫やテレーズ、又「森」の園部

はるみ等が、主体的に生きようとする真摯な姿には感動を覚えずにはいられない。

百才の誕生日を前にして十年の才月を費して書き綴ったと云われる「森」の野上弥生子について語り合う時、その初々しいまでの感性、歴史的なものへの限りない探求心、又常に前向きに生きようとする姿勢は、我々女性にとって本当に頭が下がる思いがするのです。

氾濫する情報化社会であり、又多様な価値観の中で生きる私たちは、どのようにも生きることが可能な筈なのに、かえって安易な道をよしとして、墮性に引きずられ、自己を見失いがちな今日この頃です。人間はいつも、生ある限り学び続けたいものだ、この本を読んであらたに奮気を促された思いがします。読書会では、ともすれば一人よがりになり、頑くなになりがちな私に、一冊一冊の本を媒体として、共に語り合い、広い視野で物を見ることを教えられています。ひと月に一度の逢う瀬もまた楽しからずやといそいそと出かけて行くのです。

グループ名 県立図書館読書教室 F

会員数 10名

代表者 仁宮 和代

定例日 毎月第2火曜日・13時～15時

読書会グループ紹介 私達のグループと読んだ本

①

NEWS

●子どものつどい開く

5月11日(日)に県立図書館集会室において、小学4年～6年を対象に子どものつどいを次のプログラムにより開催した。

1. インタビュー 「ぼく、わたしの読んだ本」
2. 民話 金角大王(日本)、デルモ村(外国)
3. 本の紹介 一日本の民話・外国の民話一
4. 人形劇 「うりこ姫とあまんじゃく」

インタビューでは子供読書モデル町の東出雲町からの参加もあり、合わせて100名近い子ども達が楽しい2時間を過ごした。



●第18回・全国子どもの本と児童文化講座ご案内

子ども達に読書の楽しさを感じさせるため、本年

は山口県湯田温泉で開催されますのでご案内します。

主 催 日本子どもの本研究会

期 日 昭和61年7月29日～31日・2泊3日

会 場 山口市湯田温泉4-5-2・ホテルかめ福

参加費 受講費6,000円、宿泊費15,500円(2泊5食)

当日は入門講座等の18分科会と読書会の試演等もあります。多数ご参加下さい。詳細は〒176東京都練馬区豊玉北4-4、桜台マイコーポ105号 TEL03-994-3961 か島根県立図書館普及係 TEL0852-22-5729 西部読書普及センター TEL08552-3-6785にお問い合わせ下さい。

●人事異動

◎お世話になりました

館 長 錦織 弘侃(退職)

次 長 渡部 治(教育庁総務課長へ)

総務係長 吾郷 信夫(教育庁総務係長へ)

読書普及指導員 伊藤ミキ子(辞職)

◎よろしくお願いします

館 長 稲田 健二(県児童家庭課長から)

次 長 久保田浩行(隠岐支庁行政部長から)

総務係長 吉川 洋一(県人事課から)

読書普及指導員(西部) 河野美智子